

令和8年度 第8回まちづくりふれあい懇談会記録書

- 1 日 時 令和8年8月25日（火）午後6時30分～7時27分（57分）
- 2 場 所 潮見コミュニティセンター 談話室1・2
- 3 出席者 一般出席者 20人
網走市出席者 10人（市長、教育長、
企画総務部長、市民環境部長、建設港湾部長、
観光商工部長、学校教育部長、学校教育課参事、
企画調整課長、広報広聴係長）
町連等出席者 3人（会長、理事、社会福祉協議会職員）
計 33人
- 4 議事進行 理事
- 5 進行記録
18:30 開会
18:30 市長あいさつ
18:35 町連会長あいさつ
18:38 テーマ(1)小中学校の適正規模・適正配置の検討について
19:06 テーマ(2)太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する
ガイドラインの策定について
19:13 テーマ(3)どこバスについて
19:25 その他
19:25 市長あいさつ
19:27 閉会

6 質疑など

【テーマ（１）小中学校の適正規模・適正配置の検討について】

▼参加者

学校の統廃合が各地で行われたが、今回の話はそれとは異なるものということか。
小さい学校をくっつける話ではなくて、市の学校全体のあり方を根本的に変える計画か。

(学校教育部長)

これまでも各郊外地域で学校を統合してきた経過がある。
少子化が進んでおり、今の出生数でいくと、1学年4学級あれば数としては足りる形。
今後将来を見据え、子供たちにとってより良い教育環境を創出していきたいということで、提案したもの。

▼参加者

今までの統廃合とは異なるという確認をした上で聞きたい。
この計画を考えたのはいつか。
また、教育委員会で作ったものか。
教育委員会の中に、過去の統廃合と違う次元の計画を作るための特別チームを作り、策定に至ったのか。
他の部署と検討した上での話ではないと聞いているが事実か。

教育は将来像を描きながら、どんな教育が必要かを論じて計画をしなければいけないものだと思う。
単なる子供の数だけではなくて、少子化や人口減少の中で基幹産業をどうすべきか、どうあるべきか、どういう形で市民の協力を得て網走を作っていくかということと合わせて、学校の再編の話が出てくるはずで、そういう風に進められていないのではないかと思う。
計画は教育委員会が作ったとされているが、文科省の指針とかそういうのに沿って作られているのではないかと思う。

▼理事

今の話について整理をさせていただくと、
まず計画のスタート時期がいつ頃か。
次に、計画策定にあたっての、全体の経緯が十分検討されているのか。
最後に、市役所内部の関係部署と調整されて行われているのか。の3点に絞られるのかと思うが、よろしいか。

(学校教育部長)

まず、計画ではなく基本的な考え方であり、基本計画はこれから策定するもの。
時期については、学校施設の個別施設改修計画を令和6年3月に

▼ 参加者

策定しており、その段階で学校施設の老朽化が顕著であり、改修し長寿命化を図る場合に30年間で337億円という経費が必要になるということが見えてきたので、少子化を踏まえた上で、学校施設のあり方をどうするべきかを、令和6年から教育委員会の内部の中で考え始めたところ。

プロジェクトチームはなく、教育委員会と教育委員で、様々な議論を踏まえて、昨年12月に基本的な考え方を取りまとめた。教育委員会としては、9年間で一体の教育を進めるものとして考えをまとめ、学校再編検討協議会の議論の中で、方向性を定めていきたいと考えている。

市長部局との連携については、基本的な考え方を教育委員会がまとめていく段階であり、検討はしていないが、考えについては共有している。

基本計画の策定期間には、例えば児童館の配置等について、市長部局と連携し、検討を図っていくことになる。

考え方の基本を教育委員会だけで作って提示するやり方はまずいと思う。

町のあり方に関わる問題であり、網走の将来を描いて、その中に教育がある、学校配置がある、という風に考えなければならない。

教育委員会だけでやっていることは疑問を感じる。

検討協議会で、なぜこの場に市長がいないか、の質問があったが、今言ったように、教育委員会だけの問題ではなく、全体で考えないといけない、として出された声だと思う。

市民の意見を聞いて、検討協議会にどう反映されるのかがはっきりしないと、市民としては納得がいかない。

形だけ整えるのではダメだと思う。

この考え方では、具体的なことには何も触れていない。

学校を3つに統合したいとなっているが、冬場の通学で、学校から帰れないときや、バスが止まったときに、冬場の対策として子供たちが宿泊できるような施設を学校の近くに用意する、などの考えがこの中に入らない。

効率を教育に持ち込んではいけない。

子供たちを育てるところに、安く済む、とか、効率がいいということを考えちゃいけないのは常識。

考え方の基本は全国同じで、子どもの数が少なくなる、改修や維持にお金がかかる、適正な規模、の3つの論理であり、その3点で住民に圧力をかける形で全国共通でやられている。

	文科省の指針に基づいて作りましたと正直に言えばいいだろう。
(学校教育部長)	文科省の指針は出されているが、その指針もなぞらえながら教育委員会として、この基本的な考え方をまとめたもの。 市長が会議に出てこないか、については、検討協議会の際に委員にはお答えしたが、教育委員会は市長部局とは独立したものであり、学校の統廃合に関しては、教育委員会の方で行っていく考えであるため。 市長部局との連携は非常に重要であり、学校がどのように設置されていくかによって、地域コミュニティや児童館等が色々変わっていくので、そういった点を踏まえて、市長部局とも連携を図っていきたい。
▼参加者	計画を立てるにあたり、意見を聞いて直すこともあり得るということか。
(学校教育部長)	市民の声が反映されるのかについては、5月から各地域で意見を聞く会を行い、その中で意見をお伺いしており、答えられる部分は答えている。 検討協議会委員に地域の意見は全て伝えており、市の公式ホームページの方でも、意見を聞く会で出た内容は公開している。 出された意見を踏まえながら、検討協議会で議論をしているところであり、議論によっては市の提案の内容の3校から変わるかもしれない。
▼理事	非常に貴重な意見をいただいた。まちづくりやひとづくりに関わる大きなテーマなので、これからも十分に検討して進めていただきたい。
▼参加者	将来的に3校体制にするということだが、小学生と中学生を同じ学校にするということか。
(学校教育部長)	小学校と中学校を合わせた9年間一貫の義務教育学校で進めていきたいと考えている。 中学校で教える理科等の専門的な教員が、小学生にも関わるができることや、小学校6年生から中学校1年生に上がる際の、いわゆる「中1ギャップ」が回避できるメリットがある。

一方で、小学校の卒業式がなくなることもあるが、9年間で一体的に子供たちを見ていこうという考え方。

▼参加者

学校も新築するのか。

(学校教育部長)

既存の学校を改築する考え方もある。
3校体制にするかどうかは決まっておらず、新築するかどうかは今後の議論。

【テーマ（２）太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関するガイドラインの策定について】

(質問意見なし)

【テーマ（３）どこバスについて】

▼参加者

どこバス利用時間が午後4時までだが、サークル等の帰り時間に利用できるよう、もう少し遅くするような考えはあるか。

(観光商工部長)

運行時間について要望をいただいているが、どこバス導入の経過として、朝・夕方は通勤通学で一定の利用客がおり、大型バスで乗客を運搬しているが、日中が乗客が少ないため、小型のどこバスで運行しているという背景。
午後4時以降は、通勤通学の大型バスの関係で、運転手確保が難しい状況であり、課題は認識しているが、今のところはこの運行時間でやっていきたいと考えている。

▼理事

令和5年度から本格運行が始まり、令和4年度から5年度で、約14,000人増となっているが、市外の利用客の割合は分かるか。
市内の人がたくさん使うようになって増えたのか、観光で来られた市外の人が使うようになって増えたのか。

(観光商工部長)

数字的なものはなかなか捉えきれていないのが現状。
肌感覚だが、バス会社に聞いたところ、観光客の利用は増えており、市内の利用も便利なものとして浸透している。

観光客の利用が増えている現状もあり、市内利用の待ち時間が長くなることもあるので、宿泊税を活用して増車し、運行エリ

▼理事

(観光商工部長)

アを広げて、市民の利便性向上も図ろうとしているところ。

市民のニーズ、市外のニーズそれぞれを押さえておかないと、今後の計画が立てにくいと思った。

ご意見に感謝する。

【その他】

(質問意見なし)